

パーキンソン病で通院されている患者さんで、
逆流性食道炎の症状のある方を対象とした、臨床研究参加のお願い

逆流性食道炎とは？

胃酸が食道へ逆流してしまう為に起こる、
胸焼け、呑酸、胸の違和感などが主症状の病気です。



パーキンソン病の方は、
逆流性食道炎の発症が、
多い事が分かっています。

この臨床研究に参加いただける方

- パーキンソン病で通院中の方で、
上記の逆流性食道炎の症状をお持ちの方
- 消化管の手術の既往のない方
- 抗血小板薬・抗凝固薬を飲んでいない方

他にも条件がありますので、詳しくは、脳神経内科 外来担当の先生にご相談を

具体的な研究の内容

脳神経内科の通常のパーキンソン病の検査入院（約2週間）
に併行して、下記の消化器内科的検査を行います。

- 胃カメラ
- 食道内圧測定、食道造影検査
- 腸内細菌叢(検便キットを使用します)

<研究課題名> パーキンソン病における食道運動障害および腸内細菌叢の検討

<研究責任者> 消化器内科 主任教授 廣岡芳樹

藤田医科大学 消化器内科